

2021年12月期 決算説明

サイオス株式会社
(東証二部:3744)
2022年2月3日



2021年12月期 業績の概要

2021年12月期 業績 (連結)



(単位：百万円)

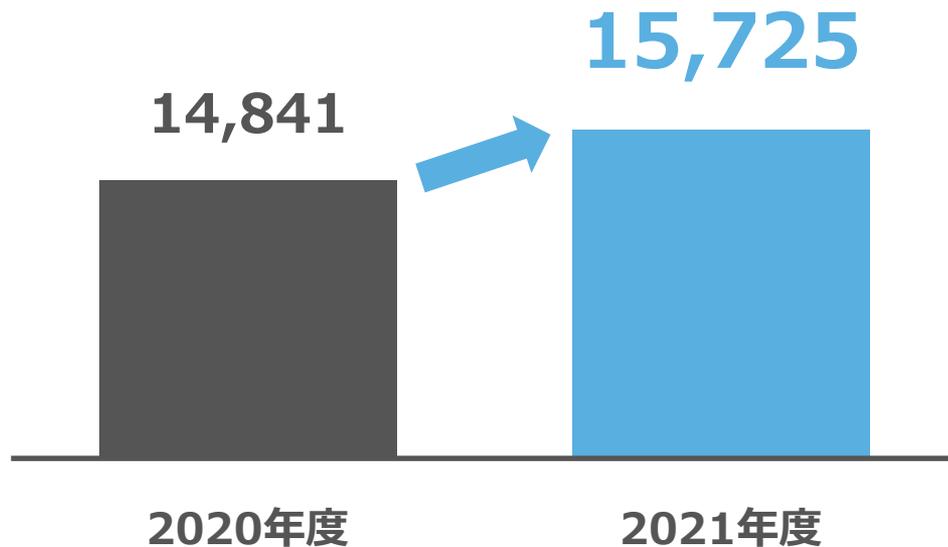
	2020年12月期	2021年12月期	差額	前年同期比
売上高	14,841	15,725	+ 883	+ 6.0%
売上総利益	4,465	4,884	+ 419	+ 9.4%
営業利益	236	358	+ 122	+ 51.7%
経常利益	256	400	+ 143	+ 56.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	310	367	+ 57	+ 18.6%
EBITDA	329	448	+ 118	+ 36.1%
ROIC	6.9%	10.0%	—	—

※EBITDA・・・営業利益+減価償却費+のれん償却額

※ROIC・・・税引後営業利益÷(株主資本+有利子負債)

連結売上高

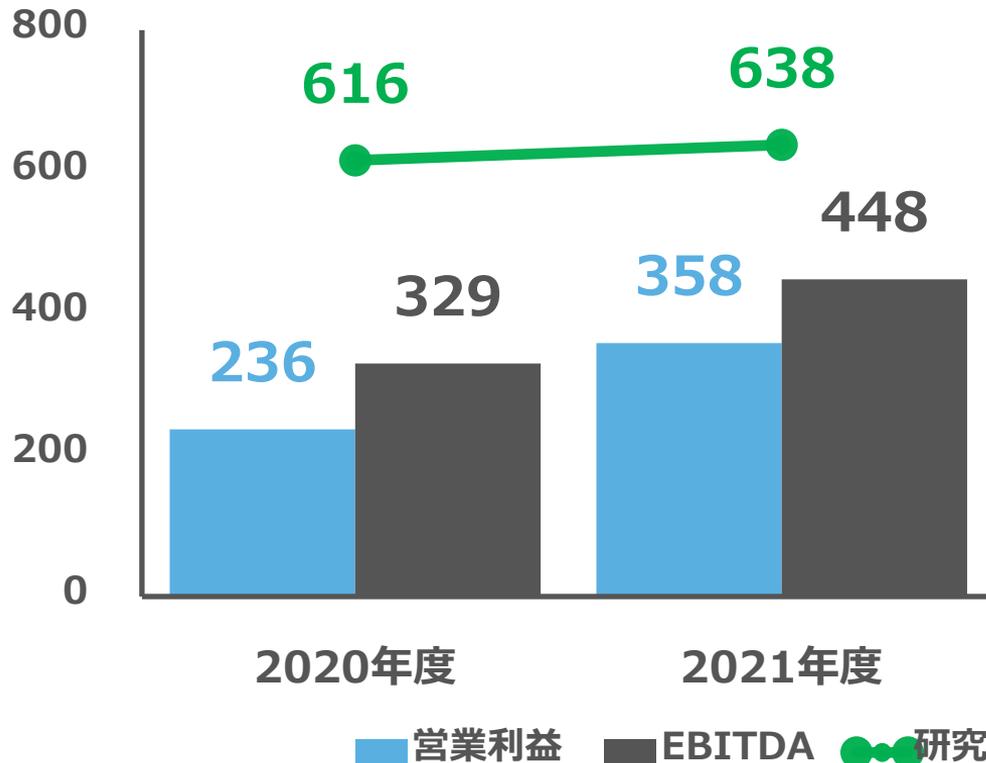
(単位：百万円)



過去最高
を更新
(6.0%増)

連結営業利益・EBITDA及び研究開発費 SIOS

(単位：百万円)



- 営業利益は前年同期比
122百万円**増加**
- EBITDAは前年同期比
118百万円**増加**

貸借対照表 (連結)

2020年12月31日



■ 有形固定資産 131 ■ 無形固定資産 112

2021年12月31日



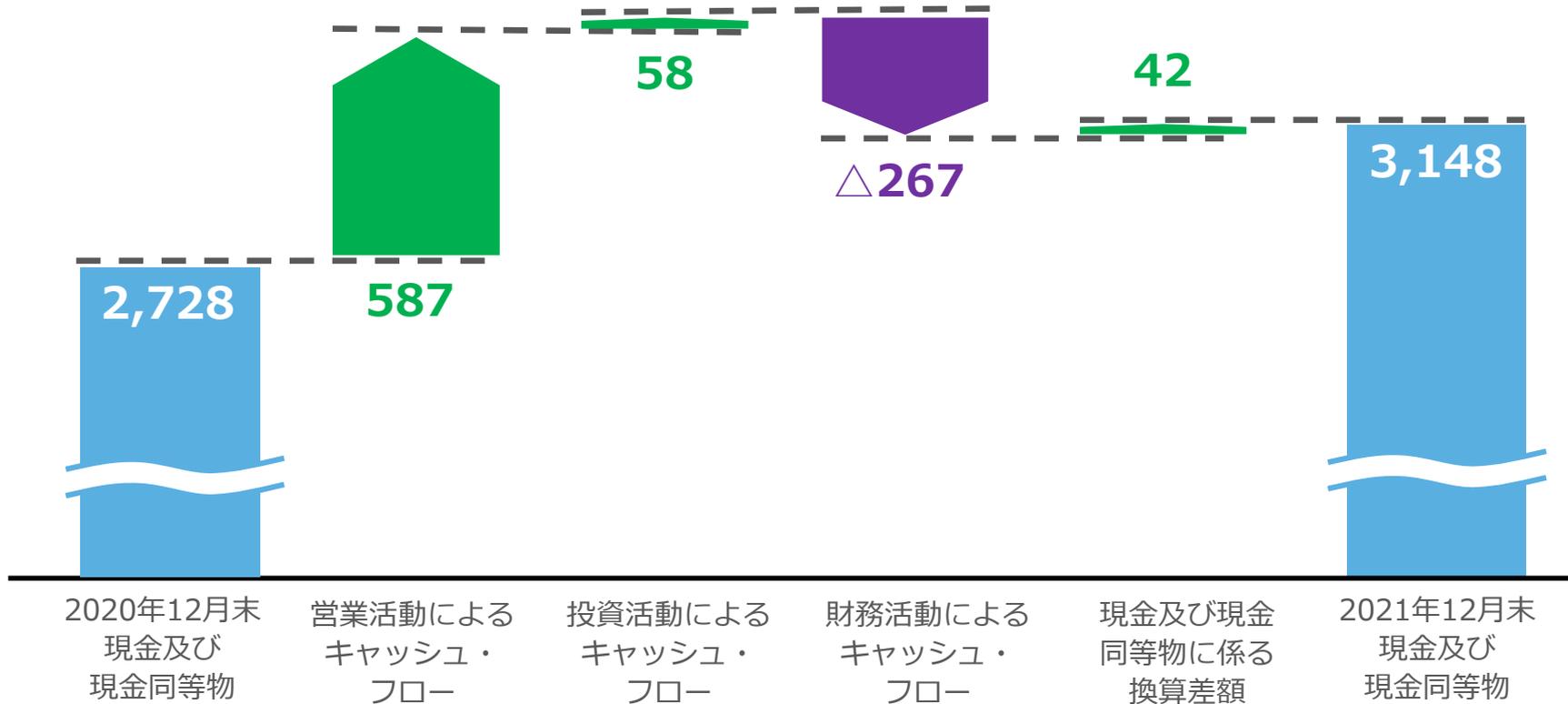
■ 有形固定資産 121 ■ 無形固定資産 100

(単位：百万円)

- 流動資産：商品484百万円**減少**
- 流動負債：買掛金628百万円**減少**
前受金328百万円**増加**

キャッシュ・フロー（連結）

(単位：百万円)



キャッシュ・フロー変動要因

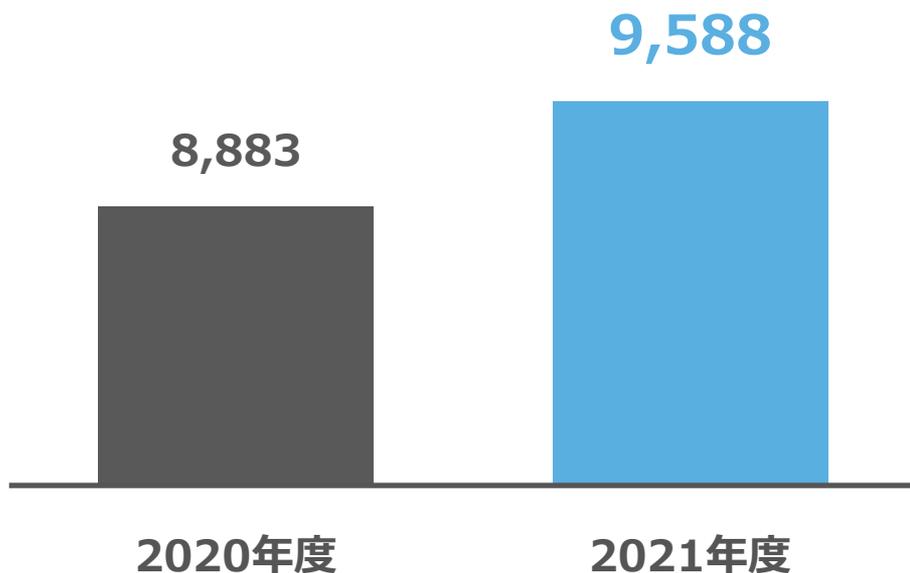
(単位：百万円)

	営業キャッシュ・フロー	投資キャッシュ・フロー	財務キャッシュ・フロー
金額	+587百万円	+58百万円	△267百万円
主な項目	(+)税金等調整前当期純利益 396百万円増加 (+)売上債権 222百万円減少 (+)たな卸資産 429百万円減少 (△)仕入債務 628百万円減少 (+)前受金 271百万円増加	(+)定期預金の払戻 130百万円	(△)配当金の支払 87百万円 (△)長期借入金返済 123百万円

売上高

9,588百万円（前年同期比 7.9%増）

（単位：百万円）



COVID-19拡大を背景として、顧客におけるDX*への積極的な投資が継続していることから、

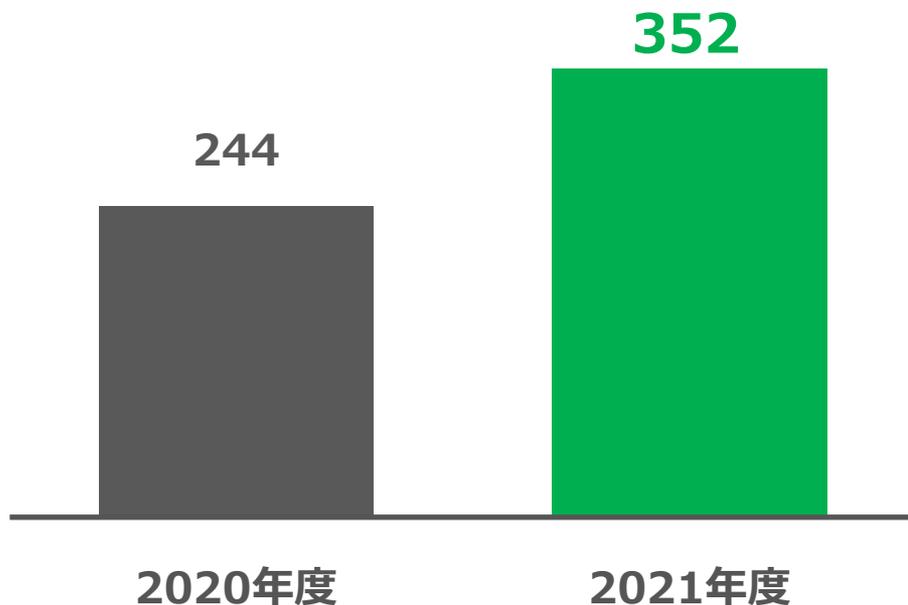
- Red Hat, Inc.関連商品*は**順調な増収**
- 主力自社製品の「LifeKeeper*」は**堅調な増収**

※「*」を付した用語につきましては、33頁に注釈を記載

セグメント利益

352百万円（前年同期比 44.6%増）

（単位：百万円）

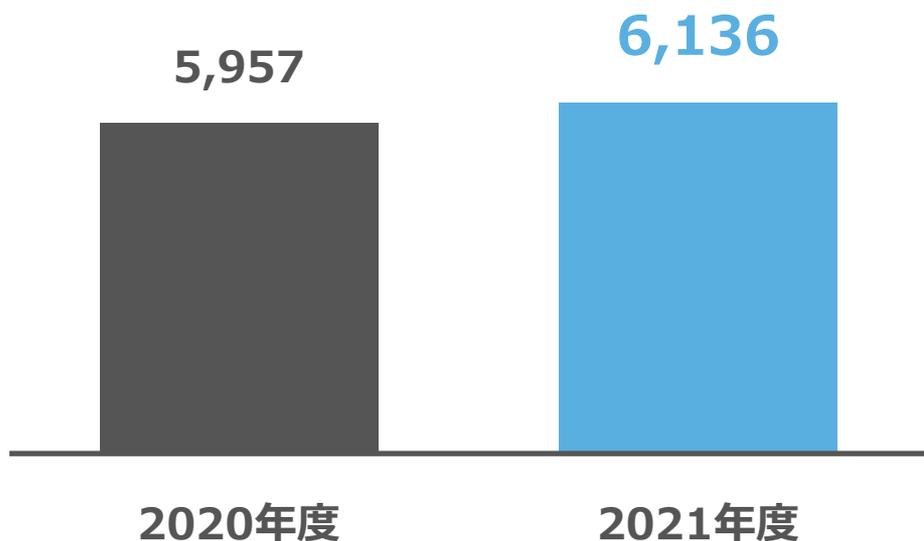


オープンシステム基盤事業の
売上高が増収となったことにより**増益**

売上高

6,136百万円（前年同期比 3.0%増）

（単位：百万円）



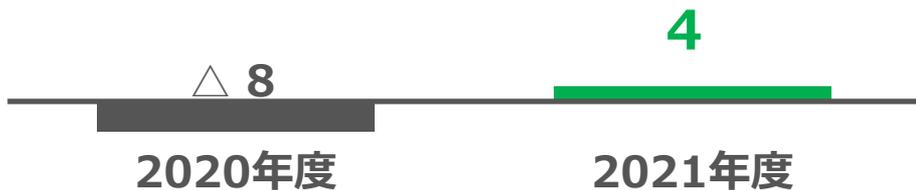
- 主力自社製品のMFP向けソフトウェア*製品及び「Gluegentシリーズ*」は**好調な増収**
- 金融機関向け経営支援システム販売は**堅調な増収**
- 金融機関向けシステム開発・構築支援は**減収**

セグメント利益

4百万円（前年同期は8百万円の損失）

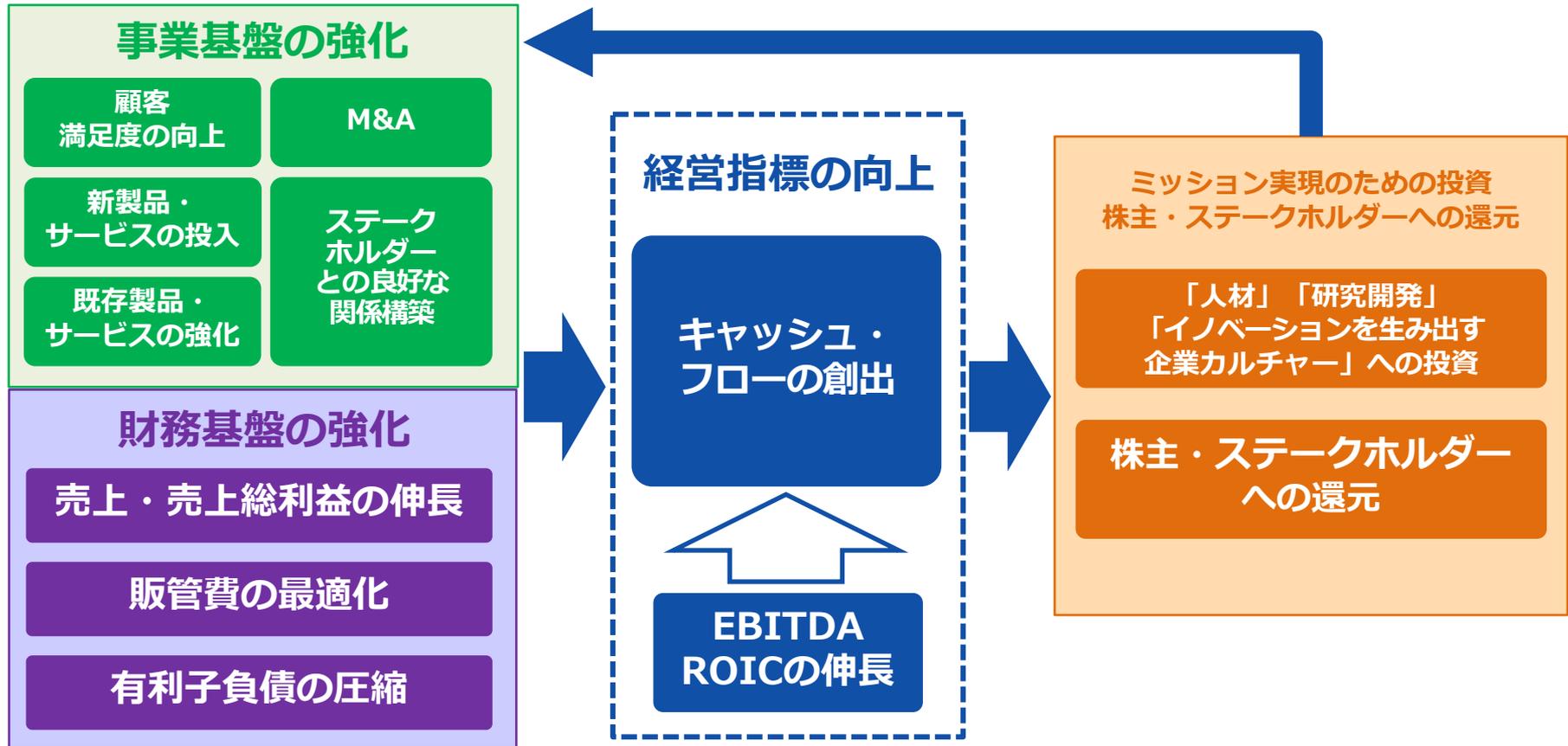
（単位：百万円）

主力自社製品の増収が寄与し
黒字転換



2021年12月期の振り返り

当社グループのミッション実現のために



既存製品・ サービスの強化

【2021年重点戦略】

顧客のDX投資に資するクラウド関連製品の強化

- ・「LifeKeeper」のクラウド対応強化
- ・「Gluegentシリーズ」の販売強化
- ・大学など学校法人へのクラウド導入支援強化

【結果】

- ・「LifeKeeper」については、利益面で大きく貢献、クラウド対応強化は継続
- ・「学校法人向けクラウド導入」も利益面で貢献
- ・第2四半期決算にて公表した「SaaS*事業の強化」対象である「Gluegentシリーズ」は好調な前年伸長、利益面でも貢献

既存製品・
サービスの強化

販管費の最適化

【2021年重点戦略】

- ・ 国内事業会社をサイオステクノロジーに一本化
- ・ 製品・サービスのクロスセリング機会の拡大とグループ経営体制の強化
- ・ 業務効率化と生産性向上を図る

【結果】

- ・ 2021年4月に国内事業会社のサイオステクノロジー一本化が完了
- ・ 製品・サービスのクロスセリング機会及び業務効率化と生産性向上を図った結果、過去最高の売上高（157億円）を達成

販管費の最適化

プラチナタワーオフィス(東京都港区)廃止

【結果】 当初の計画通り実施し、将来（2022年以降）のコストダウンにつなげた

株主・ステークホルダーへの還元

1株当たり10円の普通配当を予定

【結果】 普通配当（1株当たり10円）に加えて、設立25周年記念配当（1株当たり5円）を実施予定

中期経営計画・通期業績予想

会社経営の基本方針

当社グループは、「世界中の人々のために、不可能を可能に。」をミッションと定め、イノベーションによって人々の課題を解決し、より良い社会の実現に貢献することを経営の基本方針としています。

目標とする経営指標

当社グループは、継続的なキャッシュ・フローの創出のため、**EBITDA**及び**ROIC**を経営指標としています。

キャッシュ・フローは、当社グループ成長のための源泉（Driving Force）である「人材」「研究開発」「イノベーションを生み出す企業カルチャー」への投資、及び株主・ステークホルダーへの還元の出発点とし、これらの活動を通じて経営の基本方針の実現を目指します。

既存製品・
サービスの強化

新製品・
サービスの投入

顧客満足度の向上と当社グループの成長のためSaaS事業への投資を継続強化

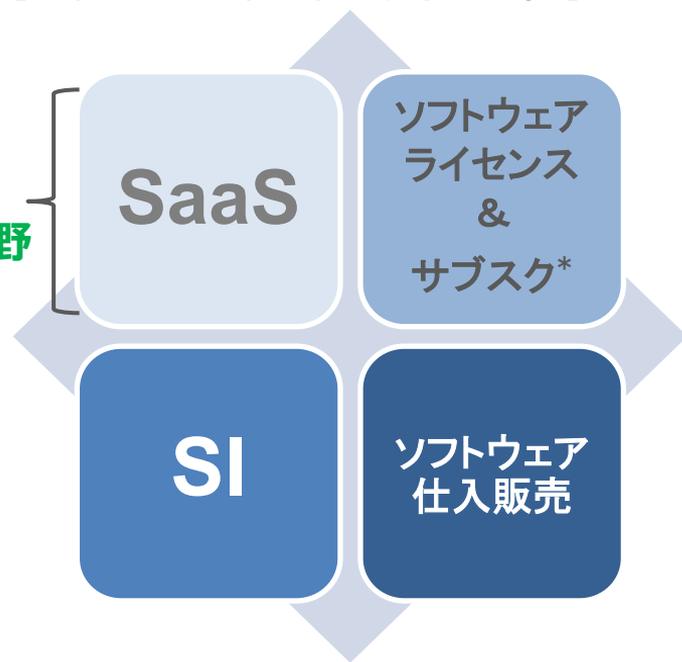
- ・ LifeKeeperほか既存製品のクラウド対応を継続強化
- ・ Gluegentシリーズの継続強化
- ・ 新分野（Med Tech）への進出

製品・サービスのクロスセリング機会拡大により、さらなる生産性向上を図る

SaaS事業への投資を継続強化

【当社のビジネス領域（BtoB）】

継続
強化分野



企業のDX化を背景とし、さらなる市場規模の拡大を想定



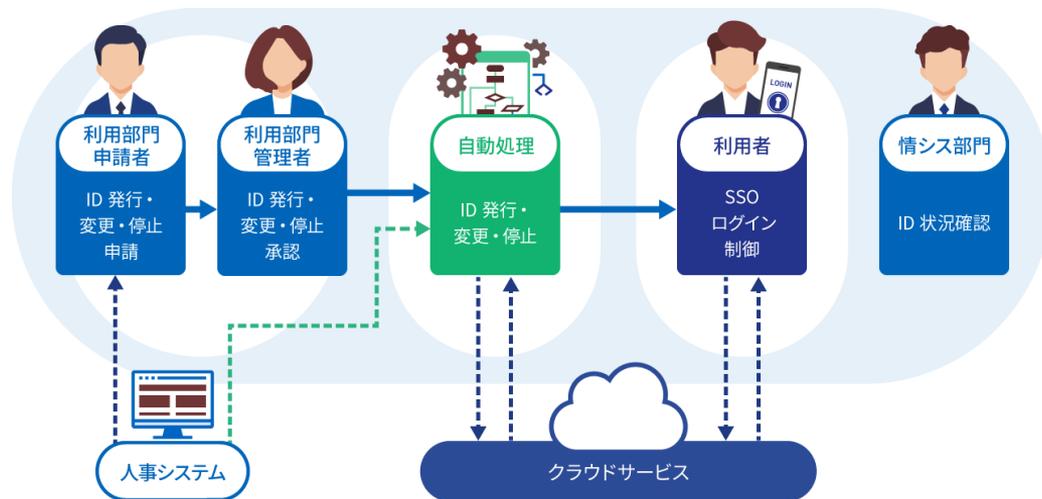
BtoB向け既存製品・サービス
(SI、ソフトウェア等) を基盤とし
SaaSに投資を継続強化

注力事業① Gluegentシリーズ



「Gluegentシリーズ」は“つながるクラウド”をキーワードとした「クラウド型ワークフローシステム(Gluegent Flow)」「SaaS認証基盤製品(Gluegent Gate)」等企業のリモートワーク移行・DX化を推進する製品群

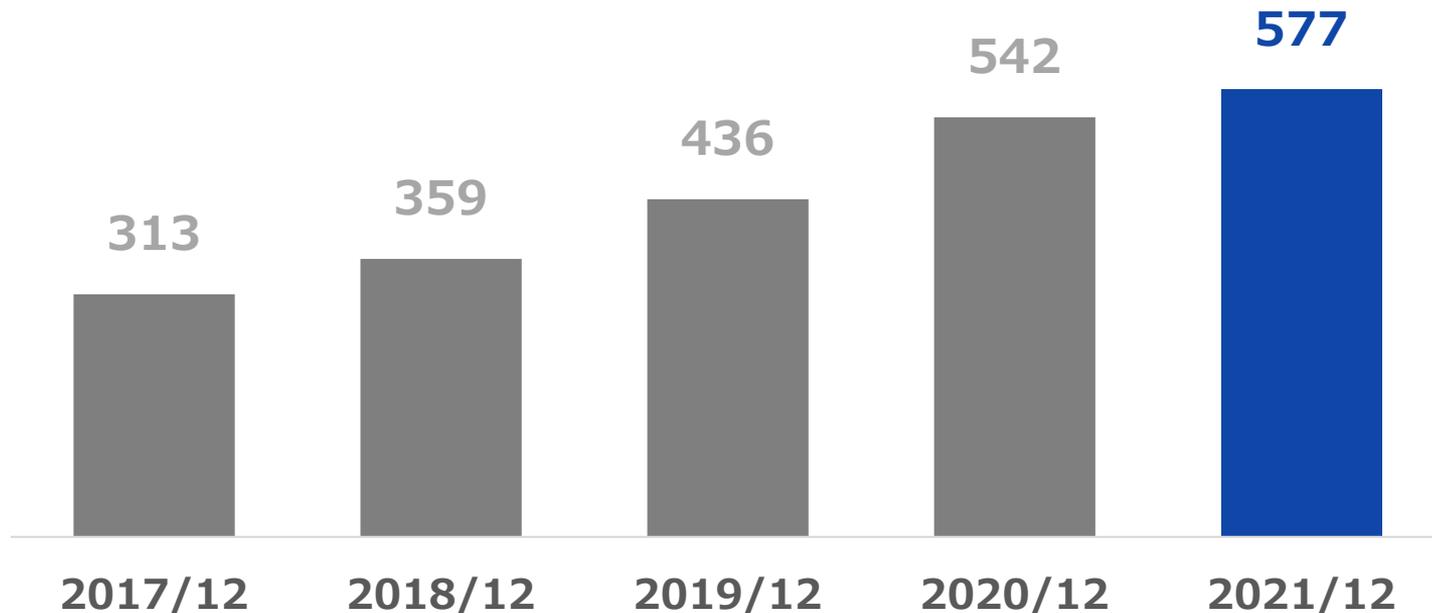
【情シスクラウド（2021年12月リリース）】



注力事業① Gluegentシリーズ



【GluegentシリーズのARR (注) 推移 (単位：百万円)】



(注) ARR (Annual Recurring Revenue) = 月末におけるMRR (サブスクリプション契約等に基づき毎月繰り返し得られる収益の月間合計) × 12ヶ月

2022年の施策

マーケティング強化

マーケティング人材の採用及びデジタルマーケティング施策の継続強化による、市場認知度の向上・受注案件の増加

製品開発強化

エンジニアの拡充による開発体制の継続強化及びユーザーニーズに適う製品の開発による、ユーザーの期待に応える製品の適時提供

精神科病院向け電子カルテサービス 「INDIGO NOTE (インディゴノート)」を今春に開始予定

【サービスの特長】

- 精神科病院向けに特化し、必要な機能を網羅
- アプリケーション連携に優れた国際標準データ規格「HL7®FHIR®」を国内で初採用
- クラウドサービスであるため、いつでも、どこでも使用可能

【今後の展開】

- 各種医療システムとの連携強化
- Med Techを注力事業の一つと位置付け、革新的なサービスを提供し続けることで「創造性あふれる社会」を実現



販管費の最適化

天王洲アイルオフィス（東京都品川区）廃止、
将来（2023年以降）のコストダウンを図る

株主・ステークホルダーへの還元

1株当たり10円の普通配当を継続予定

中期経営計画

SaaS事業への投資を継続し、
2024年 EBITDA 8.5億円、ROIC 21.5%を目指す

(単位：百万円)

	2021	2022	2023	2024
EBITDA	448	220	530	850
ROIC	10.0%	3.0%	12.3%	21.5%

通期業績予想

12期連続の増収となる売上高160億円を計画

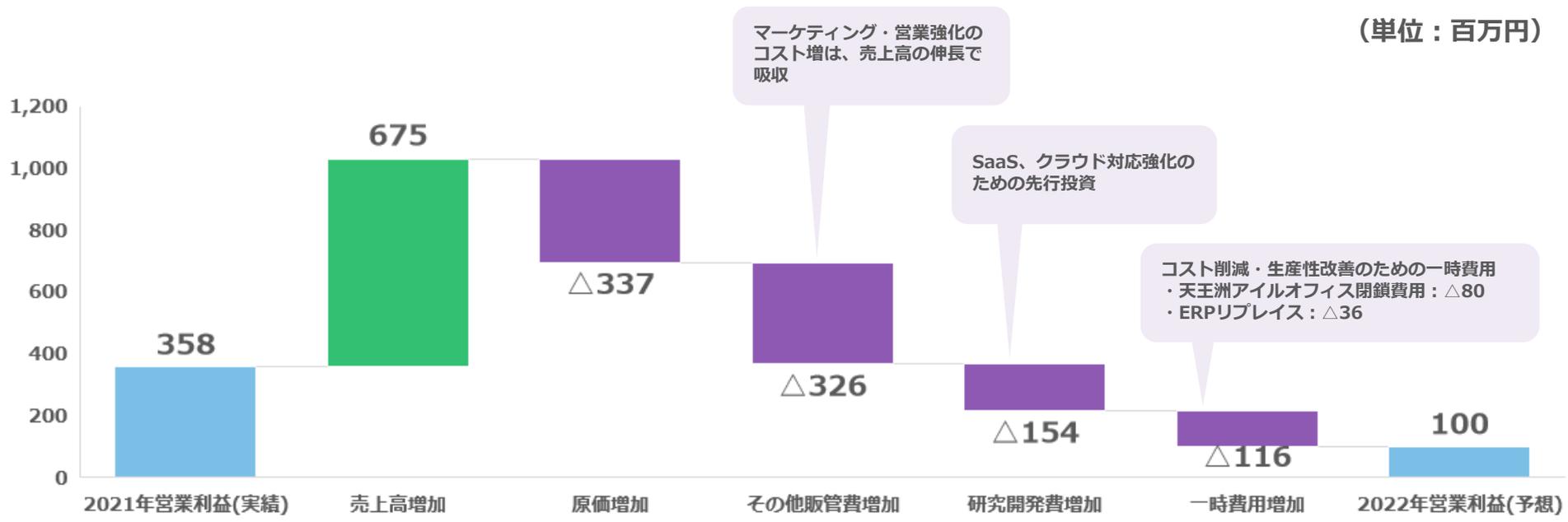
(単位：百万円)

	2021年12月期 実績	2022年12月期 業績予想	差額	前年同期比
売上高	15,725	16,000	—	—
(収益認識基準の 影響を除いた場合)	15,725	16,400	675	+4.3%
営業利益	358	100	△258	△72.1%
経常利益	400	120	△280	△70.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	367	60	△307	△83.7%
EBITDA	448	220	△228	△50.9%
ROIC	10.0%	3.0%	—	—

※2022年12月期より「収益認識に関する会計基準」の適用を予定しており、売上高において影響を受ける見込みです。

営業利益 増減要因

(単位：百万円)



※上図の「売上高増加」「原価増加」には、「収益認識に関する会計基準」の適用による影響（400百万円）を含まない。

2021年12月期及び次期の配当

	第24期 2020年12月期 (前期)	第25期 2021年12月期 (当期)	第26期 2022年12月期 (次期予想)
年間配当	10円	15円	10円

当期配当
(2021年12月期)

1株当たり10円の普通配当及び
1株当たり5円の設立25周年記念配当を実施

次期配当予想
(2022年12月期)

1株当たり10円の普通配当を継続予定

Appendix

SIOS is Innovative Open Solutions

本社	東京都港区南麻布2-12-3 サイオスビル
資本金	1,481百万円
設立	1997年5月23日
社員数	連結489名（2021年12月31日現在）
主な 連結 子会社	サイオステクノロジー（株） SIOS Technology Corp. <米国>

サイオスは、Linuxに代表されるオープンソースソフトウェアを活用したシステムインテグレーションを原点とし、ソフトウェア製品及びSaaSを提供するテクノロジー企業群を子会社に持つ東証二部上場の持株会社です。

「世界中の人々のために、不可能を可能に。」
をグループミッションに、イノベーションによって人々の課題を解決し、より良い社会の実現に貢献してまいります。

詳細情報は、<https://www.sios.com> をご覧ください。

頁	用語	説明
9	DX (デジタルトランスフォーメーション)	企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。
9	Red Hat, Inc.関連商品	オープンソースソフトウェア&サービス・プロバイダーRed Hat, Inc.が開発するオープンソースの製品。
9	LifeKeeper	本番稼働のサーバーとは別に同じ環境の予備サーバーを待機させ、万が一の障害の際には自動的に予備サーバーに業務を引き継がせる役割を担うソフトウェア。
11	MFP向けソフトウェア	プリンタ、スキャナー、コピー、FAX等複数の機能を搭載した機器をMFP(Multifunction Peripheralの略)という。MFP上で利用できる文書管理ソフトウェア「Quickスキャン」「Speedoc」等。
11	Gluegentシリーズ	IDの管理をクラウドで行うサービス「Gluegent Gate」をはじめ、クラウド型ワークフローの「Gluegent Flow」、Google Calendarにチームメンバーの予定管理機能等を付加した「Gluegent Appsグループスケジューラ」等、企業におけるクラウドを利用した業務効率化等を支援するサービス。
15	SaaS	Software as a Serviceの略。ソフトウェアをクラウドサービスとして提供すること。
21	サブスク (サブスクリプション)	ソフトウェア等の製品・サービスの提供に対して、定期的に定額課金または従量課金するモデル。

業績予想につきましては、現在入手している情報に基づいた当社の判断であり、不確定要素を含んでおります。実際の業績は、様々な要素により業績見通しとは異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向などが含まれております。但し、業績に影響を与え得る要素は、これらに限定されるものではありません。

本件に関するお問い合わせ

サイオス株式会社 IR担当

Tel : 03-6401-5125 (直通)

Webによる場合はこちらからお問い合わせください

https://mk.sios.com/SIOS_Inquiry.html

